

労働安全衛生マネジメントシステム ISO45001実践ハンドブック

企業の「労働安全文化」醸成につながる実践書
錦戸 典子

黒崎 由行 著

世界的に労働者の健康安全確保への認識が高まりつつある中、2018年3月に、労働安全衛生マネジメントシステム（OHSMS）の国際規格ISO 45001が発行されました。本書にも記載のとおり、これまでわが国でのOHSMSの認証については英国規格OHSAS18001に基づくものが一般的でしたが認証件数は2千件に満たず、ISO9001（品質マネジメントシステム）の約4万4千件、ISO 14001（環境マネジメントシステム）の約2万3千件（いずれも2018年3月末現在）に比べて社会的波及力が少なかったといえます。このたびOHSMSが品質・環境と並ぶ国際規格であるISO化されたことにより、多くの企業が認証取得に関心をもち、労働者の健康安全確保が進むことが期待されます。ちなみに、現在、ISO 45003「職場の心理社会的リスクのための指針」を開発中と聞いており、その動向も注目されるところです。

本書は、ISO 45001取得のための単なる解説書にとどまりません。第1章においてISO取得のためのペーパーワークに終始せず「労働安全文化」を構築することが大切と説くとともに、第2章において英国OHSAS 18001からISO 45001発行に至るまでの経緯やISO 45001発行の意義などについて、大変丁寧に論じられており、企業の安全衛生担当者を始め関係者にとって非常に分かりやすい啓

発書となっています。特に、労働安全コンサルタントかつ労働衛生コンサルタントである筆者自身が、ISO 45001の開発を進めた中心人物である英国規格協会のCharles Corrie氏とともにISO 45001のセミナー講師を務めた際に直接聞いた話なども交えながら、「災害の8割はマネジメントの過失の結果であり、OHSMSのゴールはトップマネジメント（組織の最高責任者）のリーダーシップによる「安全文化」の向上である」と述べている部分には筆者の熱い思いが伺えます。第3章以降のOHSMS構築の具体的な進め方の解説内容のうち、リスクアセスメントは完全な科学ではなく最大の目的は「対話の場」をつくることと説いている箇所や、幹部のリーダーシップとともに重要なものとして組織内部および外部とのコミュニケーションの重要性や実践事例について多くの紙面を割いている箇所なども、大変興味深い点です。世界で最も安全文化が高い企業といわれている米国の化学会社デュポン社の「災害はチームメンバーの思いやりで激減できる」という格言に触れ、社員同士の「相互啓発型」の組織文化の重要性を強調していることも、読者の記憶に残るメッセージとなっていると思われま

す。本書は、また、OHSMSの構築ならびにISO 45001の認証を取得するノウハウが数多く盛り込まれた実践書ともいえます。ISO



黒崎 由行 著

BSIグループジャパン 監修、労働調査会、
2018年10月、B5判並製、224頁、定価
2,500円＋税

45001の規格要求事項の解説に加え、マネジメントシステム構築のステップ、架空企業を対象とした構築事例、労働安全衛生法との関連、そして認証審査時の留意点が記されています。本書を参照することにより、目指すべき成果である「負傷・疾病の防止」と「安全で健康的な職場の提供」に寄与するOHSMSを構築することが容易になるでしょう。企業関係者、および労働安全衛生に携わる方々にとって一読の価値がある良書であり、多くの企業での「労働安全文化」の醸成につながることを期待しています。

にしきどのりこ
東海大学医学部看護学科 教授